

# お天守だより

丸岡観光ボランティアガイド広報誌

## お天守だより

第8号

### 節目の年を迎えて

会長 大霜徹夫

丸岡城が建てられて四四八回目の新年を迎えました。今年は、丸岡藩の創立四〇〇年の節目の年になります。三月からは北陸新幹線が福井県を通り、お城の西方三キロの坂井平野を疾走します。

また、建築中の丸岡観光情報センターが完成しますと、ボランティアガイドの事務所もその中に入る予定です。

これからは、ガイドも城山の麓からのスタートに変わり、どうすればお客様に喜ばれるか、期待と不安が膨らみます。

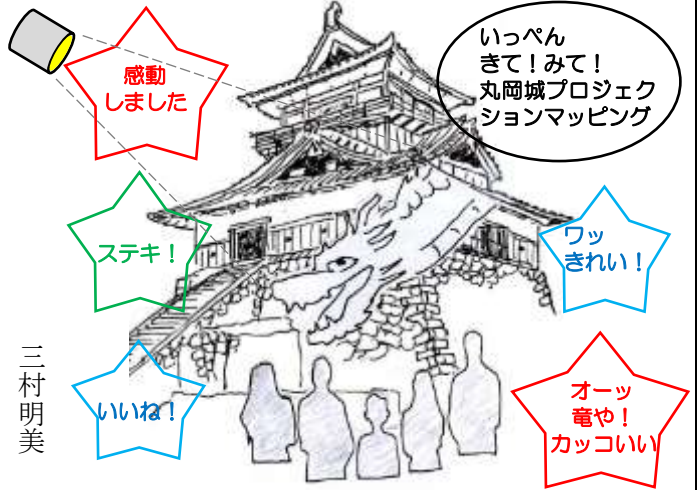
お城ブームは今も続き、最近は山城が脚光を浴びているようです。もと山城の丸岡城は天守が小さく、これを生かしたプロジェクトアクションマッピングが全国唯一の常設シアターとして大好評です。

私たちは、今回の変化をチャンスと捉え、本年を革新元年にすべく、意欲ある元気な新会員を大募集中です!!。



(昨年の研修旅行)

いっぺんきて!みて!  
丸岡城プロジェクト  
アクションマッピング



三村明美

丸岡城のプロジェクトアクションマッピングが好評です。年間を通して週に2, 3回ほど東京方面から、東尋坊や永平寺などツアーのコースの、夜の時間帯にこのマッピングが組み込まれ、多くの観光客が見られています。

私もガイドの一員として参加していますが、映像が終了後は大きな拍手が起こり、「感動しました」「今日、来て本当に良かったです」「ありがとうございます。良かったです」などのお声を耳にします。それは他のマッピングにはない、間近で見られる迫力と、丸岡城に纏わる伝説「人柱お静」「雲の井井戸の竜」をもとにしたストーリー性のある内容が感動を与えていると思われれます。

また、お帰りの際は、バスの中から笑顔でいつまでも手を振ってくださいのを見ると、「今日も無事終った。喜んでもらえて良かった」とガイド皆、こちらも笑顔で帰路につきます。

実は会場の天守閣まで誘導する中、券売所前の道で転んでケガをされた観光客がおります。夜間なので足元が暗く、アスファルトが斜めになっていますので、以後、お声掛けをしています。危険な箇所は仲間と共有して、「無事終った」と言うのが仲間内の帰りのあいさつになっています。

現在8時と9時に自動的に映像が流れます。ここで紹介したツアーガイドは不定期ですが、7時ごろ我々ガイドが解説付きでやっています。是非、皆さんいっぺんきてみてください。



### ガイドの思い出と活動

宮地健一郎

私がガイド協会に入会させていただいてから早いもので10年以上経ってしまいました。入会の頃は初代会長宮本先生がまだご存命で、色々と丸岡城のことについて御指導いただきました。つい昨日のようになつかしく思い出します。

さて、ガイド活動の話ですが、基本的には予約が入った時にガイドを致しております。本来の理想は毎日ガイド詰所において、来城されたお客様に丸岡城のよさをお話し出来たら最高なのでしょうが、なかなか難しいです。丸岡城来城のお客様は色々な年齢や思いをもった方々ですが、お客様の唯一の目的は「丸岡城の見学にあります」。これ等のお客様に「丸岡城に来て良かったあ」と思っ帰っていただくのがいちばんだと思っ活動しています。それと我が故郷にはこんな素晴らしいお城があるんですよと全国の皆様に伝えたい一心です。今後もがんばって活動させていただきます。



五角形だった丸岡城内堀

松本盛博

丸岡城の内堀は五角形を成していた。水を湛える内堀から、春は霞、晩秋には濃霧が発生し、その名の通り「霞ヶ城」の絶景が見られたのではないかな。

全国で五角形の内堀は数少なく、四国の宇和島城と星形の五角形である函館五稜郭と長野県佐久市の龍岡城五稜郭の四城が挙げられる。何故五角形や星形に設計されたのかについては、織田信長時代以降の鉄砲時代に入ると、敵襲来の有事の際に、従来の四角形よりも五角形や星形にした方が見えない部分が増える(死角を増やす)ための設計と考えられる。丸岡城の内堀は明治初期の廃城令以後すべて埋め立てられ、施設や民家の敷地となったり校庭や公園となったりしているが、その五角形の外周(約1.2km)は、現在、道路として確認できる。坂井市教育委員会では、令和五年十二月四日から十七世紀中頃の城下町再生古地図を基に、町歩き用のスマホアプリの運用(次のQRコード)を始めています。丸岡城の特徴である五角形の丸岡城城郭を歩いて確認してみたいかでしょうか。

丸岡城下町歩き用アプリ QRコード



丸岡城下町歩き用 スマホアプリの画面より

- はスマホの現在地を示す。
  - 📍 で連動する古地図(上)と現地図(下)の切り替えができる。
- 地図上の観光スポット(13施設)の紹介とその解説もご覧いただけます。



喫茶店「茶蔵庵房」のひと

小新真弘

国道8号を南に向かって車を走らせ安田の交差点まで来ると、南東の角にお城の写真が入った看板が立っているのを見えます。この交差点を東に少し進むと、土蔵が見えてきます。喫茶店「茶蔵庵房(さくらんぼう)」は、その土蔵を改装して営業をしています。



こちらのマスター、高間信夫さんは日々の仕事と週末の喫茶店営業時間の合間を縫って、趣味の建築模型作りに勤しんでいます。この模型、二十六点ほどあり、どれも手が込んでいて内部までよく作り込まれています。

代表作は某ジブリアニメに登場する「油屋」という建物で、高さが1mを優に越える大作です。実在しない建物ですが映像や資料から内部の間取りを「妄想」して製作されるそうです。

そんな高間さんが丸岡城の修復時の資料、現状視察を行なって製作された「戦国自衛隊・春日山城」があります。この作品を見て、丸岡城でロケ撮影が行なわれたことを、懐かしく語る方もいらっしやいます。

新春から、お城でのイベントが開催されますので、少し足を伸ばして一服ついでに、丸岡城をはじめ数々のミニチュア作品を鑑賞しながら語らうのも楽しいものかと思えます。



丸岡城ガイド・ごぼれ話

水野信好

③このお城は誰が建てたのですか？

観光客からよく尋ねられる質問をQ&A集にした「ツブキの花」から、一つの史実に関することを紹介します。なお、この連載は今回で終了です。

小学生の女の子を連れたいお母さんと「丸岡城は誰が建てたのですか？」と話をしていました。すると女の子が「大工さんが建てた」と答えてくれました。もちろん築城者の意味だったので、誰もそれを否定することはできません。ガイドしていただくようなほっとする瞬間に立ち会えるのは年に数回ほどかな。その築城者は柴田勝豊。でも勝豊(かっつよ)といってもぴんと来られないのでいつも「柴田勝家の養子」の「勝家」と前置きを入れてガイドしています。

柴田勝豊は丸岡城を紹介するほとんどのパンフレットに「柴田勝家の甥で養子」となっています。この甥について寛政重修諸家譜では「実は某氏の男、勝家が養子となり…」となっています。長年のことですから覆すことは難しいですね。

勝家 伊賀守 實は某氏の男、勝家が養子となり、越前國丸岡城に居し、後勝家と不和になりて勝家大附に属す。  
天正十一年四月十六日卒す。 室は稻葉右京亮貞通が女。  
女子 實は源氏中村文房養女が女。勝家に養はれて高城源大節胤則が妻となる。